

畜産の担い手育成に向けた取り組み

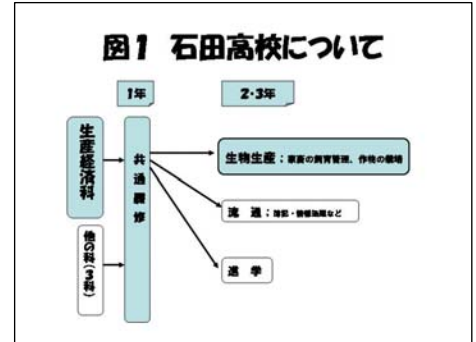
東部家畜保健衛生所
梶野昌伯

はじめに

県立石田高校は県内に5箇所ある農業高校のうちの1校で、管内では唯一、牛・豚・鶏を飼育している。家畜の飼育管理、作物の栽培を通して、生産・加工・利用などに関する基礎的な知識を習得できる生産経済学科を設置している。

その生産経済学科では、1年生の時は他の学科との共通科目を学び、2年生より、本人の適性・興味・関心などに応じて各自が生物生産・流通・進学のコース選択を行う（図1）。

生物生産コースは家畜飼養管理などに必要な知識・技術を学んでいる。



高校との関係機関の係わりについて

石田高校には家畜保健衛生所（以下、家保）と畜産試験場が図2のように、それぞれの役割を持って係わっている。

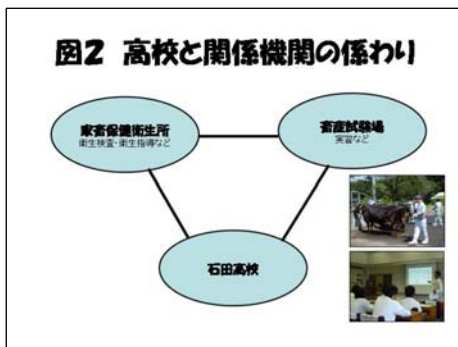
畜産試験場では、受精卵を用いた実習などの畜産新技術の講義・実習を行う。また、農業高校生の大会である家畜審査競技会の講習会と実習を行った結果、当校は全国大会に出場し好成績だった。

家保では、石田高校に対して、鶏の衛生検査、衛生指導、対策や講義・実習の取り組みを行ってきた。

家保職員が生徒に対して、鶏の病気や採血方法について説明した後、生徒が鶏をゲージから取り出し、保定し、鳥インフルエンザ検査のための採材や鶏健康検査を実施している（写真1）。

また、当所では石田高校が日頃から飼養衛生管理に努めるように、飼養衛生管理基準のパンフレットを配布したり、説明を行ってきた。写真2は定期的に消毒をし、疾病予防をするために消石灰を配布しているところである。これは生徒の実習の一環として実施している。

これらを受け、石田高校は踏込消毒槽の設置や定期的な消毒薬交換、立入禁止の看板設置、鳥インフルエンザ対策のための防鳥ネット設置、他の疾病発生予防のための清掃や消石灰散布による消毒などの対策がとられた（写真3）。



生徒との対話について

衛生検査や衛生指導では先生や2年生の生徒への話の一方通行となっており、よくないと考えた。そして、様々な会話の後、「生徒がイメージする畜産」について聞いた。

その結果、養鶏をしたいと言う生徒が1名いたが、具体的に聞くと「分からない」との事だった。その生徒は単に鶏が好きだからと言う理由で養鶏をしたいと答えただけだった。その他の生徒は図3のとおり畜産に対するイメージが悪かった。先生からも生物生産コースの家畜飼育コースを選択した生徒でも、家畜の糞尿処理が嫌という理由だけで、牛・豚担当でなく糞尿の出る量の少ない鶏担当になる生徒がいるとの事だった。

これらの話より、先生と畜産の職業等についての授業をしてはどうだろうか？そして、この授業を通して畜産業に対するイメージ回復や就職先の1つに考えてもらえないかと思ひ生徒に授業を実施することとなった。

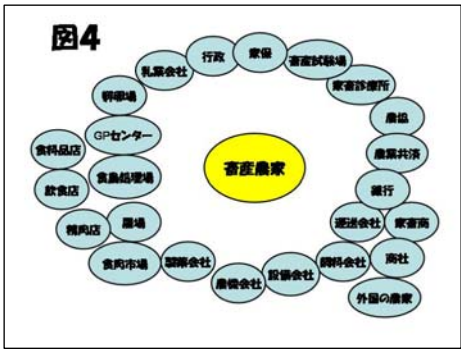
図3 生徒がイメージする畜産

- ・養鶏をしたい
- ・イメージできない
- ・汚い、臭い
- ・きつい
- ・休みがない
- ・儲からない

授業と実習について

これからの畜産を背負ってもらう生徒達（2年生）に畜産の職業について授業を実施した。実家が畜産農家という生徒はいなかった。今回の授業では、これから就職するにあたり、畜産業を選択する場合について説明した。授業では「自分自身で畜産をする必要はない」と言うのを強調した。県内には大規模畜産業者が存在し、そこでの従業員として就職でき、簡単に畜産ができる。また、1人ですべての畜産に関する作業をするのではなく、分業して畜産ができるという説明をした。高校生には理解することが難しいことがあるかもしれないので、分かりやすい言葉や写真を用いて説明した（写真4・5、図4）。これらのことにより、畜産と言う職業の敷居を低くし、畜産業に対するイメージをよくし、これからの香川の畜産を背負うことを期待したい。

実習として実際の伝染病発生時に、防疫従事者が着用する防護服を養鶏に興味のある生徒を含め、代表3名に着用させた。今回の着用が初めてだったために、防護服・手袋・マスクなどを戸惑いながら着用した（写真6）。



成果について

授業と実習を終えて、生徒からの感想は図5のとおりであった。

家畜保健指導や家畜衛生検査を通じて、先生や生徒の衛生知識が向上し、消毒などが徹底された。また、家保業務への理解も高まった。畜産職業についての授業を実施した結果、生徒の畜産分野への興味・関心が高まったと感じた。しかし、生徒の進学・就職については成果は出ていない。我々のこれらの取り組みは、これからの讃岐畜産の担い手育成に貢献していると自負し、今後も要望があれば、新しい内容も追加して取り組みを続け、これからの讃岐畜産を盛り上げていきたいと思う。

図5 生徒達からの感想

- ・ 畜産のイメージがよくなった
- ・ 畜産の職業がわかった
- ・ 畜産に就職できることがわかった
- ・ 機械化されていて、仕事がきつくなさそうだ
- ・ 畜産を取り巻く仕事が多いのがわかった
- ・ 病気の検査をするのは大変だと思った
- ・ 病気になったら殺処分する理由がわかった

図6 成果

- ・ 家畜衛生指導や衛生検査を通して、先生や生徒の衛生知識が向上し、家保業務への理解が高まった
- ・ 畜産職業についての授業を実施した結果、生徒の畜産分野への興味・関心が高まった
(過去3年の進学・就職先)
東京農業大学、県立農業大学校、香川県農協、七星食品